



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2015年8月1日

8月号・第163号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



ならやま・田んぼの草取り

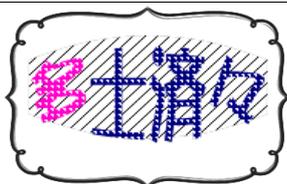
Contents

ホームページでは、カラーで見ることが出来ます



URL <http://www.naranature.com>

多士済々 (水本 遼真さん)	1	青垣春秋	12
Monthly Repo.ならやま	2	俳句百景	13
里山の今	3・4・5	癒しの散歩道 & ならやま茶論	14
春の感謝祭	6	Galleryならやま	15
7月・歴史研修会(五条)・報告	7	ならやまプロジェクト	16
山もり・てんこ森、チェコの調べ・報告	8	字遊字感 (ダイエット、冥王星)	17
自然教室チームだより	9	カシナガ調査・旬菜旬食	18
「鳥」シリーズ	10	行事案内 part1&part2・奈良学クイズ	19・20
やさしい病害虫講座	11	幹事会報告・申し合わせ・編集後記	21



周囲を和ます

水本遼真さん 顧問 阿部 和生

「ならやまベースキャンプ地」の北「ならやま大通り」をはさんで北に JR 平城山駅を中心とした 瀟洒な住宅地が並びます。戸数 750 戸の大きな住宅地です。この地区の連合会長をなさっていた当時、水本さんがこの「会」に入会されました。かねてより、地域の皆様方のご参加を渴望していた私達には、大変に大きな助っ人でした。



住宅地やその周辺環境整備に心を砕いておられ、道路左右の歩道のゴミや暴れ街路樹の撤去など住宅地外周にまでご苦労されていて、私達の活動に眼を留めて頂いていたのです。

「ならやま景観整備」が始まる初期の頃で、さまざまなゴミ、生活廃品が見つかり処理に頭を悩ましていたものです。アイデアを頂き迅速な処理をすることが出来ました。参加会員の定期的なゴミの一斉収集を提案され、以来受託景観整備地と共に周辺部までも手を広げ、現在も引き継がれています。当初は、山積みに出ていたゴミも次第に少なくなって来ています。今日では少しずつですが、周囲方々も参加していただくようになって来ています。

地区の佐保台小学校とのコンタクトや調整をしていただき交流が深まり、その後継続した緊密な関係を築く事も出来ました。佐保台住宅地の皆様のご参加も次第に増えるなど、初期のならやま活動の広がりに大変なご尽力を頂いたものです。

「竹林の整備をやろうよ！」と栗林 (a 地区) に侵入していた竹を全面除去したり、ヤブ化した孟宗竹林の整備に力を入れて頂きました。孟宗竹を切りお酒を入れて焚き火で暖めると竹の香が移り格段に美味しいお酒に変わります。この「カッポ酒」づくりを指導、お祝催事に欠かせない名物爛酒です。

初期のころ大量の「笹」の後始末が大変でした。来る日も来る日も、大型チップパー機で、刈り取った笹を処理したのですが、このとき腕・肩を痛められるほどのご活躍、現在でもその時の後遺症が残る

程です。

広い見識をお持ちで早速「幹事に就任」頂いたものです。会議が紛糾すると「ボランティア団体でしょう、向きにならずにぼちぼちやりましょう」と、うまいタイミングで場を和ませ、あるいは長年のご体験から生まれる解決策を提案くださるなど、大所高所からの助言をいただきました。

現在は、監査役として肥大している会計の行方に、気配りをお願いしています。細部には拘らないのですが、基本を重視される姿勢は毎回です。あれこれと雑談の中で、あるいは計表を見ながらのご指摘があり監査には十分な時間が必要です。大変ありがたいことです。「適切に処理されています」との総会での発言は、慎重な検討に裏打ちされた言葉なのです。

「阿部さんちょっとしばらく来られんよ…」と奥様との海外旅行を楽しまれることも再々で、あちこちを見聞しておられます。「長いフライトがきつく感じるようになってきた。旅行ボツボツ卒業よ！」と言われますが、ときには、海外でのトレッキングに挑戦され、先進国だけでなく中国奥地や周辺国なども行かれていました。まだまだ現役と実感させるお元気さです。ネパールの大地震のとき丁度外遊中で、はて、どちらへ？と心配でしたが、遠く離れた



(中国 敦煌長城遺跡前にて↑)

た中国長安だったそうで杞憂に終わったこともありました。

あの太い孟宗竹を簡単に切断する枝うち用のチェーンソーが、今回購入されました。肩や腕をいたわりつつ、またこの冬竹林で里山林で、コンビを組みたいですね。

Monthly Repo. **ならやま**

八木 順一

6月18日(木) 自主活動 曇り時々小雨 23名

雨のため定期活動は中止。有志が午前中いっぱい活動。また、イベントに向けての準備等で、ならやまは大忙し。確実にイベントは近づいてくる。

野菜の収穫や除草にてんてこ舞いのエコG。カシナガトラップの調査で成虫飛来確認に取り組んだのは里山G。草の生育が早いため少ない人数でBCや周辺の草刈り、そして花壇の草取りに大奮闘の景観G。雨の季節、草花にとっては恵みの時期だが、自然を相手にするものにはしんどい季節であることには違いないようだ。



6月19日(金) 臨時活動 曇り 15名

先週と同じパターン。やはり参加者が少ない。特に、エコGや花関係は、この少ない人数のため作業がなかなか捗らない。来週には、じゃがいも祭りもあり、何とか晴れて欲しいものである。

エコGはサツマイモ・枝豆の除草やピーマン・シシトウの手入れに、景観Gは畑や田んぼの草刈りに、湿地のアシの除草はビオトープが取り組んだ。また花は、花壇の後片付けや種まきの準備に。

最近降水確率に基づく出席・欠席の基準がかなりあいまいになってきている。やはり、基準は基準、徹底していきたい。

6月25日(木) 活動 晴れ 69名+6名

久しぶりに好天に恵まれた活動日。じゃがいも祭りも実施され、70名をこす人数に、活気が感じられる一日だった。来週から夏時間が始まり、朝8時から活動が可能になったことやチェコからのお客さんが来訪することなどが朝の打ち合わせの主な内容。加えてGGの簡単なスケジュールや参加者募集、そして月例研からも説明があった。

エコGはじゃがいもほりの他に畑の草刈りや野菜の支柱建て。景観Gは第五地区の草刈りやアジサイの移植。ビオトープはアオミドロの除去や田んぼの草とり。里山Gは枯れ木の伐採やロープ張り。また、臨時にチェーンソーの講習会も行われた。



7月2日(木) 活動 晴れ 65名+2名

佐保自然の森の雑草が目立ち、景観Gはてんてこ舞い。また田んぼの中に生える草も酷く、全体に声をかけて草取り。その他イベントの自然工作等の準備にも時間がとられる。早く夏が終わって欲しい、と誰もが思う。里山Gはバウムクーヘンの材料作りを中心に、午後はチェーンソーの説明会。エコGは田んぼの除草を中心に会全体で取り組む。景観Gは佐保自然の森の草刈りに全力投球で、新しく来た機械も大活躍。その他水生生物調査や夏花の移植や草取りにもてんてこ舞い。また、今日もシニアから2名の来訪。今年はいつになくシニアの実習生が多い。喜ばしい。

7月9日(木) 活動 曇り時々晴れ 45名+1名

気温も30度をこえ、蒸し暑い。それでも、一生懸命作業や活動に取り組むが、流石に今日からは、夏時間の関係もあって午後は1時でお終い。しかし、イベントの準備作業や説明会に追いまわされる半日だった。

エコGも景観Gもならやまに生い茂った草との格闘の半日。また里山Gはイベントの準備が中心。

7月16日(木) 自主活動 曇り時々雨 23名

台風のため急遽自主活動日に。それでも23名の会員が参加。特にエコGは山のように実ったインゲン豆やシシトウ、ナスビ等の収穫に汗を流す。また、景観Gは駐車場の草刈りを中心に。前日のジョイントコンサートの関係者3名が来訪した。

里山グループだより

平田 範光

今年の2月28日に実施したGGプロジェクトで、参加者にクヌギの苗を植樹して貰いました。

事前準備では、植樹場所に穴を掘り堆肥を入れ埋戻して目印を付加し、子供たちが移植ゴテでも植樹できるようスタッフにして貰いました。

当日は2~3人の班に分かれて23本を植樹し、各木に銘板をつけ作業は終了しました。子供たちは、植樹した木がどうなったか、また見に来たいと言っておりました。

そのあと毎月見回りしていたが、新芽の出る4月は、ほとんどの木に毛虫がつかしました。

枯らさない為に全木剪定作業等をして微妙な木については、植樹場所の近くに予備の木を植えました。7月14日現在では、植樹した23本全木が立派に生育しています。次のイベントに参加し



た子供たちが、自分達の植えたクヌギが大きくなっているのを見て、里山の生態系について考えてくれるだろう。

今年4月頃、会員から200個程のどんぐりの処分をたのまれました。たまたま真砂土があったのでプランターに植えてみたところ、ほぼ全個が発芽し現在では40~50cm位に生育した。密生しているのので今秋に植え替えし、来年秋には里山に植樹できると思います。



里山で実生の木に比べて、手を加えてやると、これだけの差が出るものかと実感しました。



エコファームだより

宮崎 まさ美

7月2日(木)

「全員で朝から草取り」

萱野さんの号令で田んぼへ。裸足で泥の中に入るなんて、何十年ぶりだ

という声に頷きつつズボンの裾をめくる。びっしりと生えたコナギを相手に戦闘開始。ほどなくあちこちから「腰イターイ」の声。隣の田では、新兵器の草取り機がスイスイ。(結構力いるんやで…操作する人の弁) 「カンカン照りでないだけましや」(そうそう、去年はカンカン照りの中、ガンコな草に苦労した。あれはキツかった!)

「昔はみんなこうして草取りしてたんや」
 「八十八回手をかけて、初めて米が出来るんや」
 「昔の年寄りの腰が曲がってるのは、このセイや」
 「小学生にもこの大変さを解らさなアカン」
 ……子供達の植えた田はトラ刈り。
 一部分に教育的配慮の草を残して“本日の草取り終了!”



午後 男性陣はトマトの雨除け・天井張り。女性陣はサトイモの救出。茂った草をかき分ける。土からムカデ、草間からでっかいイモムシ。悲鳴を上げながら、小さなサトイモの葉を確認。「ここにいたんだね、大きくおなり」優しく声をかけ、小さな草むらをサトイモ畑に。

広い畑には、茄子 トマト ゴーヤ ズッキーニ 南瓜 西瓜 唐辛子 三度豆 紫蘇 枝豆 落花生……夏野菜がピカピカ光っています。ビールのお供も生育中。そして、なにより沢山の雑草が勢いよく育っているのです。

おいしい野菜が皆さんのお口に届くまで、あと少し。

ならやま花だより

平岡久美

暑い夏ですが、田畑や路端の草達は元気いっぱい、刈られても、抜かれても、それに負けじとたくましく伸びています。花の時期が過ぎ、実をつけた草や木が多く見られます。

ジャノヒゲが花をつけていました。長い葉の陰に咲く花は、うっかりと見過ごしてしまいそうですが、よく見ると可憐で美しく、心惹かれるものがあります。冬には丸いコバルト色の美しい実をつけます。子どもの頃、実の皮をはいで地面に投げ、弾ませて遊んだものです。

名の由来は、蛇の髭に見立てたのかと思っていたのですが、調べてみると、「ジョウノヒゲが転訛して、ジャノヒゲになった。」とあります。ジョウノヒゲとは、「尉(ジョウ)の髭」の意で、能面で老人の面を「尉(ジョウ)」と言い、この葉の様子をその面のあごひげに見立てたとのこと。



ジャノヒゲ
(別名・リュウノヒゲ)
キジカクシ科
薬用植物(麦門冬)

【草花】 オオバコ、ツユクサ、アカバナユウゲショウ、ネジバナ、イヌガラシ、ヒメジョオン、ハンゲショウ、シロツメクサ、セリ、ナガバオモダカ、ヘクソカズラ、ヨウシュヤマゴボウ、ヤブカンゾウ、ムラサキカタバミ、ウド、アメリカイヌホオズキ、ヤブガラシ、イヌビユ

【木の花】 アジサイ、ボタンクサギ、ビヨウヤナギ、マンリョウ、センリョウ、トウネズミモチ

【木の実】 カクミノスノキ、イソノキ、サカキ、コバノガマズミ、ネジキ、サワフタギ、カマツカ、ウメモドキ、ムラサキシキブ、クリ、ソヨゴ

【花壇】 マリーゴールド、アガパンサス、コスモス、グラジオラス、タチアオイ、オニユリ、オミナエシ、ムラサキツユクサ、ヘメロカリス、キキョウ、ウマノスズクサ、ナデシコ、ギボウシ、ノカンゾウ



ペタキン日記 39

羽尻 嵩

6月25日(木) 1か月間抱卵していたカルガモは子鴨の姿を見せてくれることなく、どこかへ行ってしま



まった。巣には2個の卵と割れて中身のなくなった殻が残っていた。

7月2日(木) 久しぶりにならやま池の水生物調査をしたが、なぜか今年例年に比べて、種類も数も少ない。

その後は、先週から続いている竹本さんのドジョウ池の深掘りと柵囲いの作業を手伝う。

7月9日(木) 朝、カルガモのつがいならやま池で泳いでいたが、どこからか作業員が現れたので、驚いて逃げてしまった。残念!

7月16日(木) 台風接近だったが、イベントに備えて作業をする。池周辺の溝はミゾソバ(ウシノヒタイ)で埋め尽くされてしまった。ものすごい繁殖力に圧倒される。



タナゴ池の草刈りや池の泥除去・ザリガニ捕りをする。泥の堆積もすごい量だ。

ならやま池周辺は、草刈り部隊が来てあっという間に綺麗になった。

ならやま虫だより

菊川年明

◆トノサマバッタ

体長はオス35～40mm、メス45～65mmとたいへん大きく、わが国のバッタ界に君臨する殿様である。大きさではショウリョウバッタのメスの方が大きいですが貫禄ではとても本種に及ばない。体色は緑色型と褐色型がある。オスは後脚と翅を擦り合わせてシリシリという音を出す。成虫の出現期は7月～11月。

警戒心が強く、たいへんよく飛び、なかなか近づけない。飛び立つと十数メートル先まで行ってしまふ。イネ科植物の背丈がごく低い草原や裸地に近いところを好む。仮面ライダーの容貌のモデルにもなっている。

アフリカや中国大陸などでイナゴ（飛蝗）の大群として、農作物に大被害をもたらすことで恐れられている昆虫はトノサマバッタの近縁種である。わが国のトノサマバッタも大発生して過密状態になると体形が変化して、大集団で長距離を移動するようになる。

私たちが普段目にしているトノサマバッタは孤独相（単生相）と呼ばれているものであるが、大発生して過密状態になると群生相と呼ばれて、翅は長く、後脚は短くなって、長距離飛行に適する体形になる。体色も黒ずむ。

わが国では明治10年代に北海道でトノサマバッタの大発生があり、5年も続いたそうで、バッタ退治には軍隊（屯田兵）まで出動したという。比較的近年では鹿児島県種子島近くの馬毛島で大発生の記録がある。（写真はトノサマバッタ）



パトロール班レポート

山本隆造

◆今年がナラ枯れのピークか？

サイクリングロードから彩の森越しのならやま自然林の直近の様子です。

葉が変色したナラ枯れのコナラが青葉の中で目立ちます。ナラ枯れの発生が昨年より早いようです。



7月9日梅雨の合間のパトロールです。今回の目的の一つは昨秋マーキングしたコナラの観察です。

昨年11月、自然の森観察路沿いのコナラの内、カシナガの侵入を受けて枯死を免れた木に緑のテープで番号を振りました。彩の森観察路入口から小羊歯の辻、オオタカの辻、104ピークを経てサイクリングロード（下水施設の手前）に至る間で、1～43です。

森林総合研究所関西支所の「ナラ枯れの被害をどう減らすか」（2010年3月改訂版）の中に「一度枯死を免れた木は、次年度以降再度カシナガの加害を受けても枯死する確率が低い。樹体内の環境の悪化によって侵入したカシナガも繁殖に失敗する。」との記述があり、ならやま自然の森で確認できればとの思いです。

今のところ43本すべての木で青葉が展開繁茂し、今年のカシナガ侵入も認められず、元気な様子です。

一方、昨年カシナガの侵入が認められなかった多くのコナラに、フラス（木屑と虫糞が混ざったもの）が見られカシナガの侵入が認められます。特に観察路入口から小羊歯の辻の間は、昨年侵入木が少なかった区間ですが、今年はほとんどの木にカシナガの侵入が認められます。

観察路沿いのごく一部の状況から大胆に推測すると、自然の森の大半のコナラにカシナガが侵入しており、今年がナラ枯れのピークになるのでは？と思われます。森林総研の記述通りであれば、カシナガの繁殖に適したコナラがやがて無くなりナラ枯れは収束に向かうのでは？とも思われます。

春の感謝祭

ジャガイモ祭り



富井 忠雄

6月25日(木)は梅雨の晴れ間で絶好の日和となりました。今年の参加者は、会員が69名(シニア大学実習生2人含む)と、辻本信一さんの紹介で、日本語弁論大会で優勝したミルカさん(チェコ)・日本語教室で研修中のアンさん(木津川市在住・フィリピン)のお二人、そして、東京海上日動のお二人、合わせて総勢73名でした。

じゃがいも掘りはスムーズに行いました。



恒例のならやまカレー作りに男性陣は、GGプロジェクトの予行を兼ねて、飯盒での炊飯に挑戦しました。初めてのわりに4合炊き10個の飯盒炊爨はうまく出来上がりました？

さらに女性陣は羽釜で黒米ご飯3升を炊きました。



カレーライス具沢山(じゃがいも、玉ねぎ、ズッキーニ、茄子、大蒜などならやま産使用)・人参の野菜たっぷりと肉とルーを入れて出来上がりました。



正午過ぎに予定通り「春の感謝祭」がスタート。また女性スタッフから愛情たっぷりの野菜サラダ、漬物などの提供があり、皆さん満足そうにしていました。まさしく地産地消、大地の恵みに感謝の気持ちでカレーなどを賞味していただき、カレーなど完食でした。また初取りの茄子を焼き、皆さんに食べて貰いました。



今回は、留学生や東京海上などのお客さんにもお越し頂き、和やかに楽しく感謝祭が出来ました。エコファームの皆さん、池田さん以下女性の方に色々お世話になりました。

有難うございました。

7月・歴史研修会

五條市の歴史を訪ねる II

7月14日(火)参加者27名。梅雨とは思えぬ快晴、予想最高気温は34℃、歴史日和である。朝日に映える葛城山、金剛山の山並みを見ながら、マイクロバスはJR北宇智駅から細い古道を上がり近内町に着いた。万葉集や続日本記に天皇の狩猟場とある。欽明天皇が狩りに来た時の歌がある。

「たまきはる宇智の大野に馬並めて 朝踏ますらむ その草深野」

近内は葛城修験道の道場「金剛山転法輪寺」への登山口でもあり、参詣者で賑わったという。

はるかに台高山脈の高見山、大峰山脈の山上ヶ岳・弥山が遠望できる高原地帯である。

登録有形文化財「藤岡家住宅」は近内の中心にある。江戸時代の豪壮な庄屋屋敷は、壁が落ち、天井には穴、庭は荒れ放題になっていたという。修復時、家具・商売道具・生活用具などの骨董品や貨幣が無数に発見され、各分野の専門研究者の調査によって、その貴重さが証明された。そのお宝が所狭しと陳列されている。各部屋には珍しい着生植物「風蘭」が飾られ、芳香を放っている。

三代前の当主藤岡長和(俳号玉骨)は内務官僚・知事時代を通じて正岡子規や高浜虚子など文人や政・財・学界の著名人とも広い交友があった。多くの手紙も発見され展示されている。丁度粘菌研究者「南方熊楠からの手紙展」が開催されていた。

玉骨が自宅で詠んだ句がある。

「蔵の前 涼しきことを 猫知れり」(内蔵にて)玉骨という俳号は、うちの館の開館記念誌では中庭の老梅にちなんで自らつけたという。のちに鉄幹から陳腐だとして、蒼厓の雅号をもらったが、気に入らず使わなかったとある。

管理・運営する「うちの館」川村館長から「古事記に記されている五條」について講義があった。川村さんは学芸員で日本児童文芸会会員。タイの民話を翻訳して日本に紹介したり、絵本その他の著作も多い。藤岡家で発見された、現存する古事記の写本で最も古いといわれる国宝「真福寺本古事記」(真福寺蔵)の上・中・下巻3冊の復刻本

(昭和18年立命館大による復刻本の解明をしておられる。

上巻(瓊瓊杵)木花之佐久夜毘売と阿陀比売神社(昭和18年立命館大により複製)の研究をされている。

大広間で昼食の後、午後川村さんのガイドで阿田を訪れる。阿田は神武天皇が熊野より八咫鳥に導かれて、大和の国で最初に足を踏み入れた土地、「吉野河の河尻」とされる。

阿陀比売神社は江戸初期の建築で、創立は崇神天皇15年に遡る。祭神は瓊瓊杵尊と結婚した「木花佐久夜毘売」と御子たち4柱。古来より安産の神として信仰されてきた。近くに御子を生むときに産屋に火をかけた比売火懸の森がある。

吉野川沿いに下り、大和と紀伊の県境の辺りは

丘陵地

で万葉

の名所

「真土

山」で

ある。

金剛山

から発

し紀ノ

川にそそぐ落合川が両県の境界となっている。万葉時代の街道はこの川を横切っていて、飛び越えられる箇所が「飛び越え石」と名付けられた。

60cm程の幅だが、おっかなびっくり全員無事飛び越えることができた。この辺りを詠んだ万葉歌は8首あり碑が建っている。そのうちの一首

「白栲の にほふ真土の 山川に 我が馬なづむ 家恋ふらしも」

この地が万葉人に多く詠まれたのは帝都・大和から旅立つ「国境」であったからとか。地元では「神代の渡り場」とも呼ばれていた。弘法大師がここを通過して高野山へ向かうとき、腫瘍で乳が出ない女人に霊薬を調法してたちまち治したという大師伝説がある。かつて「待乳膏薬」として、真土峠(別名 待乳峠)の茶屋で売っていたらしい。

川村さんを藤岡家住宅までお送りして帰途についた。(中井 弘)



森林体験山もり・てんこ森

奈良県山の日・川の日普及啓発推進事業

奈良県では7月の第3月曜日（海の日）を「奈良県山の日・川の日」と定め、県立野外活動センターに於いて農林部森林整備課主催による「森林体験山もり・てんこ森」のイベントを実施、奈良県の山・川の重要性や魅力を発信している。

当会ではこのイベントの趣旨に賛同し、今年も男性7名、女性5名の12名のスタッフが参加、



来場者に自然工作の竹製カスタネットとブンブンゴマ作りを楽しんで頂き作品を持ち帰って頂いた。

今回は風通しの良い屋根付きの第3サイトでの出展、場所も良く、出だしから快調なスタート、



午前・午後ほぼ同数の150名の来場者を得ました。

カスタネット、ブンブンゴマ作りに没頭する子供達の笑顔と真剣な眼差しに接客の疲れもどこへやら、来年の出し物に思いを馳せスタッフ一同充実した気分で会場を後にしました。（辻本信一）

満員御礼

ジョイントコンサート チェコの調べ

危惧していた台風11号の影響もなく7月15日「チェコの至宝」と謳われるあの伝説のバリトン歌手ロマン・ヤナール氏一行を奈良にお迎えし、国立博物館講堂に於いて「ロンダリア・虹の会」の皆さんとのジョイントコンサートを開催致しました。当日は会場を埋め尽くさんばかりに170名以上の方に御来場頂きました。



第一部は「ロンダリア・虹の会」の皆さんによる明るく陽気なフィリピン音楽、第二部からはギターデュオによるクラシック音楽の演奏、ギター伴奏によるヤナール氏のバリトン独唱と続き更には日本の童謡も交え時間を延長して幅広く楽曲を披露して頂きました。

アンコールには「赤とんぼ」、「故郷」の日本の歌が2曲披露され、全員で合唱、会場は和やかなムードに包まれました。

ヤナールさんのバリトンの歌声が場内に響き渡ると一瞬にして皆さんのハートを驚掴み、皆さんの目と耳は舞台にくぎ付けと成りました。

コンサートが始まるまではこの様なイベントが皆さんに受け入れられるのかどうか、何人の方々に来て頂けるのか、非常に危惧致しましたが、皆様の満足そうなお顔を見て杞憂に終わりました。

最高の雰囲気の中、素晴らしいコンサートを皆さんと共に楽しめた事に心より感謝致します。“満員御礼”皆様、御来場有難う御座いました。

（辻本信一）

自然教室チームだより

佐保台小 校庭の自然観察会
実施報告

6月24日第7回目となる校庭の自然観察会を行いました。梅雨の季節であり雨が心配でしたが、晴れて良い日になりました。参加児童も前年よりぐんと増え、58名となりました。

「自然の不思議にたくさん触れてほしい、昔からの自然遊びを楽しんでほしい、自然の素材を使った工作も楽しんでほしい」そうした私たちの想いを伝えるために、このたくさんの方々にどう対処していくか、それが最大の課題でした。



取り上げたポイントは①クズ（私たちとの関わり、いろいろな形の葉っぱを使ったジャンケン、葉っぱのポン）、②マツ（いろいろなマツボックリ、クロマツとアカマツの違い、松葉のお相撲）、③ドングリ（ドングリの赤ちゃんの発見、校庭にあるドングリの実物、いくつかのドングリクイズ）、④ユノテガシワ（木の形・実の形の不思議、花から実への変化）、⑤アベリア（実の形を模したヘリコプター飛ばし）の5つでした。それぞれ楽しんで参加してくれました。

その後、校庭にもある自然素材を利用したクマのペンダントを作りました。みんな夢中になって目・耳・鼻を付けていました。

なかなか大変な観察会で、反省事項もたくさんありましたが、スタッフ一同しっかり準備を進めたこと、そして放課後教室の皆さんのすばらしい協力があったことで無事楽しい観察会を行うことができました。（倉田 晃）

OP:平城宮跡イネ科植物の観察会

「イネ科植物の『美しさ』を知ろう！」をテーマに、6月16日佐藤庄八さんの案内で平城宮跡のイネ科植物観察会を実施しました。

何分地味な分野ですので、参加者もあまりないかと思っていたのですが、案に相違して11名の方々に参加していただき、賑やかに、また充実した観察会となりました。

平城宮跡はイネ科植物の宝庫ともいえるフィールドで、今回も多少時期外れながら、2時間という短時間の中で、23種に出会うことができました。

佐藤さんからイネ科植物の基本的な構造の説明を受けた後、今まで見たこともなかったネズミムギやスズメノヒエの花をルーペでじっくり見たり、ハルガヤの出すクマリンの匂いを嗅いだり、オギやヨシの葉っぱに触って感触を確かめたりで、五感をたっぷり使った観察会でした。

参加したみなさんも「あんまりたくさん種類があるのでびっくりした」、「懸命に花を咲かせている姿を始めてみる事ができた」、「急がず、慌てずじっくり観察したのがとても良かった」、といった感想を語っておられました。（倉田 晃）

9月自然観察会 奈良公園
巨樹・巨木巡り（予告）

日本の環境省が調査上での巨樹・巨木を定義している。それによると地上1.3メートル（胸高）での幹回りが3メートル以上の木を巨樹・巨木と定めている。

一説によると奈良公園内の巨樹・巨木と呼べる大木は300本近くにも上ると言われている。

9月奈良公園の巨樹・巨木巡りを企画します。

長い歴史を生き抜いた巨樹たちに、さあみんなであいに行こう！！

【集合日時】平成27年9月29日午前10時

【集合場所】近鉄奈良駅、地上部行基菩薩像前

【観察ルート】奈良公園一帯を楽しく探索

【持ち物】弁当、飲み物、暑さ対策を忘れずに！

（辻本 信一）

鳥シリーズ 8月

鷓鴣(サザキ)と木菟(ツク)



小田 久美子

古事記や日本書紀の中に、後に聖帝と云われた16代仁徳天皇の名前に、鷓鴣(さざき)や雀(さざき)の名が付いた記述があります。

ミソサザイとスズメは同じように小さいからでしょうか、記紀を読むとなかなかすんなり腑に落ちませんが、私なりに纏めてみたいと思います。



【ミソサザイ 舳倉島】

仁徳天皇がお生まれになった時、産殿に木菟(つく)(ミミズク)が飛び込んで来ました。

翌朝、父の応神天皇が武内宿祢(たけのうちのすくね)を呼んで「これは何のしるしだろうか」と問われると、宿祢は「それはお目出度いしるしです。昨日、私の妻が出産する時、ミソサザイが産屋に飛び込んで来ました。これも又不思議なことです」と答えました。

そこで天皇は「我が子と宿祢の子とは同じ日に生まれた。そして両方共にしるしがあったが、これは天のお示しだ。その鳥の名をとって互いに交換し子供に名付け、後のしるしとしよう」とおっしゃいました。

それで、サザキの名を太子に付け大鷓鴣(おおさざきの)命(みこと)となりました。

そして、ツクの名を大臣の子に付け木菟宿祢(つくのすくね)と名付けました。

これが平群氏の先祖である。と、日本書紀は云います。

何故交換するのか煩惱の身は納得出来ません。ミソサザイは雀より小さい 10.5 (本により 10)cmの日本でも一番小さい鳥です。

主に山林の溪流添いで蜘蛛や虫を取り、繁殖期以外は一羽で過ごしています。

茶褐色の目立たない体はなかなか見つかりませんが、その体には似合わない大きな、そして、とても美しいソプラノで謳いあげて存在をアピールします。

流れのある少し高い山を歩くと、頂上へ行くまでにも数個体が皆さんを迎えてくれる筈ですよ。

一方、フクロウの仲間が一番小さい(20 cmほど)、その名に「ツク」が付くコノハズクという鳥がいます。



【コノハズク♂ (カキズク)】

木菟宿祢(つくのすくね)のツクは拳大のこの鳥ではないかと私勝手に推測してみました。

コノハズクは東南アジアから夏鳥として渡って来ます。

繁殖期♂は「ブッ キー コー」と鳴くので長い間「仏法僧」と呼ばれてきました。今では、本物のブッポウソウは姿のブッポウソウ、コノハズクは声のブッポウソウと呼ばれています。

今月はややこしくなりましたが、写真をみくらべながらお読み下さい。

(写真撮影：小田)

やさしい病害虫講座 16

「病気と害虫のデパート」

木村 裕

家庭菜園の常連野菜の3羽ガラスの一つ、キュウリの代表的な病害虫を紹介します。

葉の表面を丸く円を描くようにかじる橙色の虫はウリハムシ(瓜葉虫)の成虫です。円を描くのが得意で、体をコンパスの代わりにして葉の表面を丸く浅く傷つけます。日が経つと、その円弧部分の細胞が死んでしまうため抜け落ちて丸い孔となります。苗の頃は被害が大きくなりますので、こまめに手で捕らえましょう。天気の良い日中は動きが活発で人が近づくとさっと飛んで逃げ去りますのですばやくキャッチ。スイカ、メロン、カボチャも大好きだと言っていました。



アブラムシもよく発生します。小さな虫ですがいつも新葉の葉裏に群がって飲み会を開いているため、会場となった新葉は縮こまって変形します。すでに開ききった葉では葉の変形はありませんが、大量のねばねばした排泄物がポトポトと落下しますので、その下方にある葉の表面は汚れ、かつその排泄物を餌とする煤病菌が発生しますので、葉は黒く汚れてきます。テントウムシさんの協力を得られない場合は早期にアブラムシ専用薬剤を散布しましょう。

根に大小さまざまな形のコブをつくるネコブセンチュウも厄介な害虫です。ミミズのような虫ですが、体長が1mm以下で白色透明ですので目

が良いのを自慢にしている人でも発見は不可能です。被害症状のみが目立ち、キュウリの生育不良の原因ともなっています。家庭菜園では防除の難しい害虫の一つです。この虫の好きなキュウリ、スイカ、メロン、トマトなどを同じ畑で続けて栽培しないように。またキュウリの株の近くにマリーゴールドを栽培しておく予防効果があります。

病気の筆頭は葉に白い小麦粉を振りかけたような斑紋が現れるのはうどんこ病です。発生初期は葉に輪郭の不鮮明な白いカビの塊が点々と発生し、被害が進むと葉全体が真っ白になり、やがて葉は元気をなくして衰弱して枯れてしまいます。気温が高く乾燥した状態が続いたときに発生が多くなります。窒素肥料をたくさん与えることは発生を応援しているようなものです。それゆえ葉が大きいことは窒素肥料が多い証拠です。発生に気づいたらトリフミンなどうどんこ病専用薬剤の散布をしましょう。



葉に葉脈で囲まれた角型の斑紋が現れるのはべと病です。最初に下葉に発生し、しだいに上方の葉へと広がって行きます。湿度が高いと発生しやすいので、詰め詰めの栽培は避けて風の通りをよくします。また肥料が不足するとすぐに発生しますので、食べ物はきちんと与えましょう。症状が現れた葉は早く切り取って処分します。

葉に発生する褐色で円形の斑紋は、炭そ病です。1円硬貨くらいの大きさですが、被害が進むとたくさんの斑紋が現れ、古くなると破れてきます。雨が降り続けると発生が多くなります。また地面から菌が跳ね上がってきますので、畝の上をビニールやわらで覆うと予防効果があります。



由緒と古事民話談記 ②

歴史文化クラブ
鈴木末一

文献の所在を探し

ていたある日、春

日神社（通称・東の宮さん）にB4版青焼きコピー紙の由緒調査書らしき文献が引き継がれているとの情報を得た。日焼けし文字が掠れかけてはいたが、どうにか判読することはできた。原本が存在しているのではと考えられる表現があり、県立図書情報館に問い合わせると、【佐保村各神社由緒調査書】が、貴重文書として保存されていることが判明した。早速、閲覧を試みたが、毛筆でしかも達筆、合わせ文字などの書法もあり、半月余り通い詰め、データ化を試みた。

大正四年七月、佐保村村長から添上郡長に進達したものであった。佐保村には法蓮の三社（常陸・稲荷・狭岡神社）と法華寺の三社（宇奈多理・春日・法華寺神社）の六社があり、それぞれの由緒が詳記されていた。

前号の続編として、宇奈多理（通称・西の宮さん）神社に纏わる奉納相撲について記してみます。

調査書の「祭祀行事」についての原文は、其神社ニ限レル特別ナル祭儀年中行事一社相傳ノ舞楽、神楽歌及祈祷法、禁厭法

御手始式 二月二十七日

社頭ノ老榊樹ニ鬼ト書タル的ヲ掲ケ氏子ノ長老者交々弓箭ヲ射之年悪鬼ヲ拂フト古来言傳フ（尤此日祭典行フ）

神前角力 例祭日ノ前日

夕刻ニ神前中門外ニ木刀二本組合セ置ク角力手（氏子当番）二人木刀前ニ参シ一揖東西ニ分レ各敵手ニ其体力ノ偉大ヲ示ス腕ヲ扼シ肘ヲ撫シ足カヲ示シツツ其威カヲ示スノミニシテ實際ノカヲセズ此時「ヨイ々々々々」ノ掛声ヲ相圖ニ直ニ木刀ヲ採リ参籠所ニ馳入ル最先ニ入シ方ヲ勝トス是ヲ相撲ト云ヒ神前ニ三度行之續テ小相撲ヲ行フ前ト同場所ニテ當番ノ兒童實際ノ角力ヲ行フ奉三番是等ノ角力ニ付キ氏子ノ祭事當家ヨリ各角力手禪一本宛供スルヲ例トセリ此角力ハ神慮ノ角力ト言傳ヘ往古ヨリ行之以テ神慮ヲ慰メ奉ル・・・。

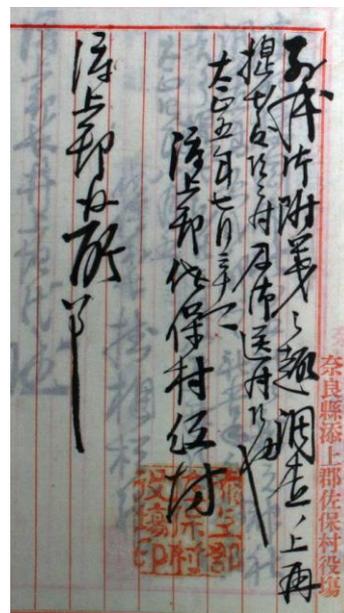
古来より民俗文化が継承されてきたが、昨今の状況などについて、氏子総代の上総嘉章さんに尋ねてみた。

「奉納相撲」（「相撲取り」）

毎年10月10日にその年の＜秋の祭礼＞が執り行われ、五穀豊穰を祈願して「相撲」が神社境内で奉納された。（現在は「体育の日」の前日としている）

相撲を取るのは「当屋」を務める家の「稚児」と、前年に稚児を務めた少年二人が東西に分かれて土俵入りをする。

ニシー（西）生駒山、ヒガシー（東）三笠山、と呼び出しの威勢のいい声で土俵に上がり、ハッケヨイでお互いにぶつかるが、事前に勝ち負けを云われているので少々迫力がない。しかし3番勝負目は自由にやらせるので大体年長の前年の稚児が勝つこととなる。



土俵は今も境内に砂地を整地して作られていて当時の面影を残している。残念ながら少子化の影響でこのところ稚児を出せる当屋が現れず、暫く相撲なしが続いている。

少子化の影響は、このようなところにまで及んでいる。

（御祭神）

- 高御魂尊（タカミムスビノミコト）
- 天太玉命（アマノフトダマノミコト）
- 思兼命（オモイカネノミコト）
- 天鈿女命（アメノウズメノミコト）
- 大宮媛命（オオミヤヒメノミコト）
- 豊岩窓命（トヨイワマドノミコト）
- 手力男命（タヂカラオノミコト）

青山に雲影まだら梅雨明けける 八木順一
 歴史クラブ7月例会。宇智野へ向う途上の一句。葛城・金剛の雄姿が鮮か。碧天の白雲に盛夏の訪れを思う。爽快な一句。

風蘭やまろうど招き香を放つ 八木順一
 俳人 藤岡玉骨の旧邸訪問。床の間に風蘭の小鉢が並ぶ
 内務官僚として、南方熊楠など交友録を見聞する。偉大なり玉骨。

夏雲の大白波や宇智大野 坂東久平

吉野・高野・熊野に囲まれた宇智野。古事記の伝承地を巡る。入道雲が湧き、流汗も心地良きかな。歴史の深遠は果てなし。

おくつきの馬見の丘の夏木立 坂東久平

歴史クラブ9月例会下見行。「おくつき」は古代墓のこと。馬見公園一帯は古墳の宝庫。かぐや姫伝説にも出会う。

つんつんと合歡の花咲く澄ましかほ 西谷範子

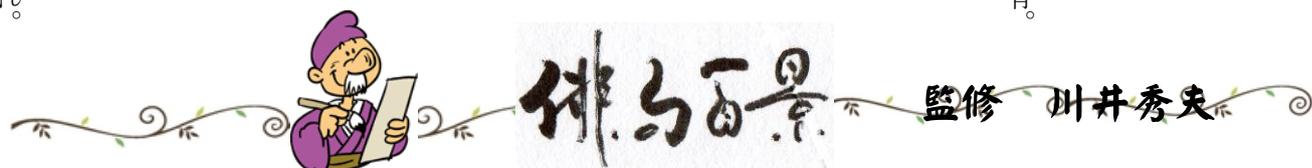
合歡の花は上戸の様に気取り屋さん。涼しげに凜として。「つんつん」の形容詞が良い。写生句の佳品。

草生うるわが丈越して半夏生 西谷範子

なら山の一角に白い花穂の下の葉の半分が白色になり目立つ。「片白草」とも。周囲の草丈が大威張り、少し刈ってチョーダイ。

抱卵の軽鴨ちよいと水恋し 羽尻 嵩

「軽鴨」は夏の季語。なら山の池中の草地に棲みつく。作者は観察に余念がない。人を恐れないところが可愛い。親鳥頑張れ。



青々と天衝く梅の楮(ずわえ)かな 古川祐司

なら山の梅林。今年是不首尾に終る。作者は育ての親。心中如何ばかり。天に向けて若枝が逞しい。来年の実梅は悲願達成なるか。

茄子クラブ座布団ほどの葉の自慢 古川祐司

茄子栽培への賛辞。今年も協力者のお蔭で実生からの自然栽培
 大成功。ジャンボ茄子の大葉にびつくり。「一念天に通ず」か。

夜明け前にはかむやうに月見草 青木幸子

作者の自邸の草花。マツヨイ草の帰化植物とは別種。夕べの白色が朝には紅色に。含羞の花の色か、作者もそんな人柄と思いたい。

里山に鮫背な色の茄子実る 青木幸子

「いなせ」は粹な男の形容詞。青は「若い」「未熟な」の意。茄子は青春の色。秋茄子まで色褪せるなく、人生もご同様。

白鷺の思案思案の田の一步 鈴木末一

「白鷺」は夏の季語。「青鷺」は通季。鷺の挙動が面白い
 差し脚、忍び足、飽食の人間様に比べると餌の確保も大変ですな。

風の筋幾通りにも青田風 鈴木末一

なら山の田圃も気が付けば見事に成育。風の流れが青田と戯れる。代田掻き、水量調整、害虫防除、など陰の労力が秋の豊作に繋がる。

梅雨さなか予報に惑ふ覗雨 川井秀夫

不順の季節。降雨率により作業日の進退に迷う。「覗雨」はある地方の方言で、地上の人間界の戸惑う様を天が覗いているとの意。この時季の慣用語。雨を表現する言葉は全国で3000あると言う。

癒しの散歩道

幸せとは一瞬の出来ごと

谷川萬太郎



- (1) この世の定めを知らぬ君の瞳は 今その奥で何を見つめて生きているのだろうか
 貴方の手から逃げたその白い鳩が 例え陽炎みたいに夢花火にはかなく消えても
 侘しさと空しさに思い悩む事はない 人は哀しみに出会うたびにまた強くなれるから
 ありのままの自然の優しさに惹かれ 人の心の窓に寄り添いながら美しさに癒される
 抱く志は大きく強い絆に支えられて 夏の雲間に隠れにし遠い小さな星にも届けよと
- (2) 季節の過ぎゆく程に咲く花は変りても 我が胸の鼓動は熱く我ら夢を追い続けるなり
 海原に波打つ嵐の行方は何処に去りし 恋しきは遥けき故郷の景色に想い馳せる
 吹く風も爽やかに冴ゆる夏の青空よ 漕ぎ行く船影は遠く静かに銀色の光の海を進む
 時は過ぎ花は枯れても命果てるまで 夢の続き胸に秘めて大地に貴方の足跡を残さん
 寄せては返す潮騒に誘われし幸せよ 人それぞれに姿かたちを変える一瞬の出来事か

ならやま茶論

筆のとまる時



竹本雅昭

クワイ： もういいかげんにしてよ、大勢でグングン押してきて日が当たらないでしょ。

草： 何言ってるんだい収穫漏れの芋さん、ここは元々我々の土地なんだ簡単にどくもんか。

[ここではたと筆が止まる]

筆者： 伊佐坂先生もしょっちゅう原稿締切迄苦しんでるな、良く気持ちが分るよ。この先どうもイメージする文が出てきそうもない……困った非常に困った。

筆： 少し休んで「幸田文全集」でも読んだら、返却日もせまってるし何かヒントあるかもね。

筆者： そうだ、あの日は田圃の草取り後、足を洗ってる時にあの訴えるような狐顔のクワイの葉と目があつたんだ。

筆： うんうん、それからどうしました。

筆者： 昼になったんで夏場特製の太公望自慢の冷汁で弁当をパクパク。もったいないほどあちこちで鳴く鶯の声で食がすすみ、すっかりクワイと草のことがぬけてしまった。

筆： でもこの時期ツバメやトンボが側まで来てさかんに仲裁のシグナル送ってたんじゃないの。

筆者： そこが人間の薄情なところでな、今すぐの用でない限り分別が邪魔してね。辞書ではクワイを「慈姑」と書くけど良くしてあげねば怖いことになりそうだ。

筆： 中国からの渡来種と書いてますやん、大事にしてやって下さい。

～ 終 ～



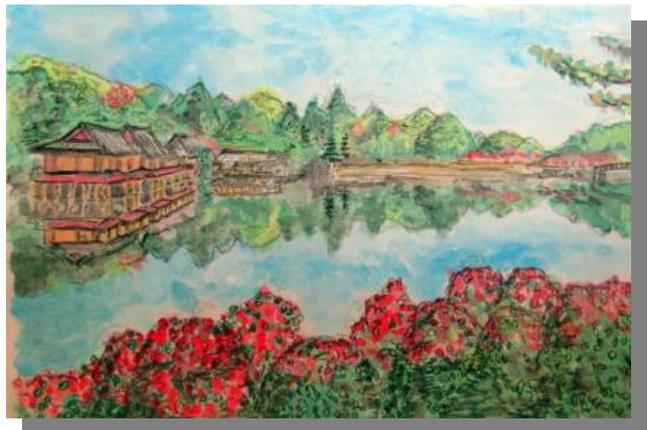
- ① 墨彩画(羽尻 嵩)「夕涼み 2」
- ② 水彩画(永井幸次)「北沢峠」
- ③ 水彩画(八木順一)「今井町」
- ④ 水彩画 (鈴木末一)「老舗」
- ⑤ 陶芸 (小島武雄)「子猫」
- ⑥ パステル画(有元康人)「春の花」



▲①



▲②



▲④

▼⑥



▲③

▼⑤



ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理せず・諦めず
活動予定日

8 月	6 (木)	13 (休み)	20 (木)
9 月	3 (木)	10 (木)	17 (木)
月	24 (木)		

- ◆ 場 所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約20ヘクタールの里山林地（県有林）
- ◆ 朝の打ち合せ：ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 作業開始：午前8時から可（夏季期間）
- ◆ 終了予定：午後1時（夏季期間）

◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分
- ② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場 115系統
8：28発、高の原行き（平日）
- ③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場 115系統
8：36発 JR奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩7分

- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。



- ◆ 連絡先：八木 順一 0774-55-4044

8月6日

<里山 Gr>

GGイベント対応（遊びの森整備、工作準備）
エリア境界のロープ張り・薪関係作業

<エコファーム Gr>

大根畑の畝作りなどの準備
茄子・唐辛子などの整枝・除草・追肥
カボチャの収穫、里芋の土寄せ

<景観 Gr>

【全体一斉清掃30分】・BC周辺の草刈り
水生生物調査、池の整備
あじさい施肥、夏花手入れ
*皆伐予定エリアの希少植物調査・保護

8月20日

<里山 Gr>

GGイベント対応（遊びの森整備、工作準備）
エリア境界のロープ張り

薪関係作業

<エコファーム Gr>

大根・畑畝作り

<景観 Gr>

BC周辺の草刈り／そば播種の手伝い
池の整備 山野草園草取り、柵作り
*佐保自然の森、植樹木の銘板設置

8月27日

<里山 Gr>

コナラ被害木伐採、その他枯損木除伐
※ 保険問題の解消が前提 ※

<エコファーム Gr>

玉ねぎの種まき床の準備
各種野菜類の種まきの準備

<景観 Gr>

彩の森草刈り
水生生物調査、池の整備
向日葵撤収、コスモス手入れ
*観察路周辺の、ウルシ刈り取り
※パトロール班の日は変更もある



ダイエットはこんなにすばらしい



探査機が冥王星に接近

杉本 登

坂東 久平

私は現在シェア CITY カレッジでアシスタントをしています。カレッジの有志でダイエットクラブを作ってダイエットしようという話になり今年3月に発足しました。目標を立て、証拠写真を撮り、1年後に目標に到達したかを評価しようということになっています。

肥満が困るのは服が合わなくなるだけでなく、中性脂肪やコレステロール値が上がり高血圧、糖尿病、腎不全、痛風等のいわゆる成人病の原因になるからで、分かっているにもかかわらず痩せられないのが実態です。私の場合も町の成人病検診でメタボと診断され(ウエスト87センチ)医者から痩せなさいと指示されました。身長172センチ、体重72.5kgと少し太めでしたが、高血圧、境界型糖尿病、軽度腎不全、痛風で4種類の薬を飲んでいました。これまで何度もダイエットに挑戦しては挫折を繰り返してきましたが、一念発起してダイエットを開始しました。

実行したことは次の3つです。①毎朝起床時にトイレに行った後、体重と血圧を測る。②毎日1万歩を歩く。③一日の食事カロリーを1800Kcalに抑える。ご飯は茶碗に軽く一杯にし、お酒はビールを止めて焼酎にする。間食は一切しない。開始後2週間はお腹が空いて辛かったのですが、だんだん胃が小さくなって平気になりました。外食や飲み会が続くと体重が増えて、正に3歩進んで2歩下がるの繰り返しでした。しかし、諦めずに続けていると少しずつ体重が減り始めました。毎日数百グラムと僅かですが、減ると嬉しくなっています。こうして、3ヶ月後には69kgになりました。

先日人間ドックを受けたところ、血圧、中性脂肪、コレステロール、尿酸値、HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー、糖尿病の指標)、eGFR(糸球体濾過機能、腎不全の指標)脂肪肝が解消、数値が改善し正常値になっていました。ウエストも83.5センチとなりメタボではなくなりました。これからも楽しくダイエットを続け最終目標は67kgに置いています。親から貰った体を大事にして残りの人生を充実して送りたいと念じています。

NASAは、アメリカの惑星探査機「ニュー・ホライズンズ」が、冥王星の1万2500キロ上空を通り過ぎ、地表の構造や大気の組成などを観測した、(日本時間：14日21時50分頃)と発表した。実に2006年1月の打ち上げから、9年半であった。

冥王星(めいおうせい)は、昔は太陽系の第9惑星とされていて、水、金、地、火、木、土、天、海、冥と覚えたものであるが、2006年に惑星の定義が変更になり、準惑星に区分されることになった。大きさは地球の1/4ほどで、月よりも小さい、8個の惑星が黄道と軌道面が同じであるが、冥王星は黄道面から大きく傾いている。

惑星と準惑星、小惑星の違いを比較すると、惑星は、恒星の周りを回る天体のうち、比較的小さなもの(木星の十数倍程度)よりも小さなものをいう(太陽系では8個)。

準惑星は、恒星の周りを回る天体のうち、重力(自己重力)によって静水圧平衡(ほぼ球形)を保つに足る質量があるものをいう。

宇宙の始まりでは爆発と衝突で、星屑が大きくなり、ある程度以上大きくなったものが惑星になり、損ねた未熟者が準惑星に、それ以下の小者が小惑星になった。小惑星「はやぶさ」で有名になった「イトカワ」もその一つである。

冥王星は他の天体との衝突が少なかったと推測されており、太陽系創生時の状態が解るかも知れません。表面は固体の窒素や一酸化炭素の氷で覆われていますが、内部には水の海があり、有機物も存在していると想定している学者もいます。



観測データが全て送信されるのに、9ヶ月掛かるそうです、何が解るか楽しみです。

カシノナガキクイムシのトラップ

ならやまベースキャンプ地の里山林西側入り口付近には2種類の変ったトラップが仕掛けられています。見学大歓迎です！

幹の周りに風鈴のような物がぶら下がっているのは、奈良県の森林技術センターが試験的に設置したもので、この風鈴の中にはカシノナガキクイムシが嫌うヒノキエクスが入っています。飛来する虫を追い払って侵入を防ごうとしたものです。

良い結果を大いに期待するところですが、現状では樹の周りに木屑がかなり落下しており、効果のほどは？



もう一つは、幹に沿って25個のロート型のトラップを縦に並べたものです。一番下のペットボトルにはお酒？（エチルアルコール）が入っています。虫の世界でも酒好きが多いようで、この匂いに魅かれてやってきた虫を集めて樹への侵入を抑えようとするものです。設置するとすぐに集まってきて、1週間で200匹ほどの虫が捕まりました。



(木村 裕)

旬菜旬食



ならやまエコファーム今月は、夏野菜料理

- * 茄子のみぞれハサミポン酢かけ
- * 冷奴の薬味いろいろ
- * そうめん・オクラ・ズッキーニのあんかけ

◆材料 (2人分)

茄子大1個・大根、とうもろこし、青豆少々
豆腐1丁、薬味用(葱・たくあん、キムチ漬・チリメン雑魚、茗荷、昆布の佃煮等、少しずつ)、
そうめん1把(春雨でも良い)・ズッキーニ・オクラ・土生姜



調味料；油・出し汁・片栗粉・ポン酢

◆作り方

* 茄子のみぞれハサミポン酢掛け

茄子をヘタを付けたまま縦半分に切り皮目に縦に切り目を浅く4本くらい入れ水分をふき取り油で揚げる(170° 1分) 反対の身の方の真ん中に切り目を入れる。その中にとろろこし、青豆を湯がき大根おろしに混ぜたものを挟み入れポン酢で食べる。

* 冷奴の薬味いろいろ

木綿豆腐1丁(絹こし豆腐でも良いが木綿の方が薬味とよく合う) 薬味は葱・たくあん(黄色)キムチ漬、チリメン雑魚・茗荷、昆布の佃煮等なんでもお好みのものをみじん切にして豆腐に混ぜて食す。(茄子の素揚げも美味しいよ)

* ソーメン、オクラ、ズッキーニのあんかけ

そうめん1把は湯がいておく、ズッキーニは大きめの乱切で湯がいておく、オクラは小口切り。出し汁でズッキーニとオクラを煮てそうめんを加え、塩、醤油、生姜で味を調え片栗粉の水溶きでとろみをつけて仕上げ、冷たく冷やして食す。

(池田 富子)



行事案内 part 1

8月 月例研修会〈夏季研修会〉

【尼崎 21 世紀の森づくり】視察

- ・今年の 8 月例研「夏季研修会」は、「兵庫県尼崎市の森づくり 100 年計画プロジェクト」の視察を、兵庫県のご協力を得て実施いたします。
- ・このプロジェクトは、兵庫県主導のもと、2002 年から、尼崎臨海地域の「尼崎の森 中央緑地」でスタート。県、市、市民、ボランティアG、地元企業等が一体となって参加しています。
- 緑の森、豊かな自然環境を作ることにより、環境共生型のまちづくりを目指しています。ならやまの活動同様の都市近郊型の景観整備事業で、地域の子供たちへの環境教育にも力を入れています。
- ・我が会のこれからの活動にも大いに参考になることが期待されます。
- ・当日はこの他、生物を活用した「尼崎運河水質浄化実験施設」や近くの西宮浜ヨットハーバーにある世界の貝類が身近に観察できる「西宮貝類館」にも立ち寄ります。
- ・暑い季節でもありますので、27 人乗りの貸切バスで行きます。多くの方の参加をお待ちしています。ご参加の方はならやま F にある「参加申込書」にご記入いただくか、担当までご連絡ください。

- 1.実施日 ; 8月17日(月) 8時20分~16時
- 2.参加費 ; 3,000円(貸切バス代、高速代他)
- 3.事前申込 ; 貸切バス定員 27名。先着順。ならやま申込書記入か担当寺田まで。
- 4.集合 ; 近鉄大和西大寺駅南口 8時20分
- 5.その他 ; 各自お弁当持参 雨天決行
担当 羽尻、青木、寺田
申込、問合せ先 寺田 tktera@m5.kcn.ne.jp
(ご参加者には、別途ご案内を差し上げます。)

GG プロジェクト案内

「ワクワク！どきどき！里山で遊ぼう！②」

グリーンギフトプロジェクト行事の一環として、子供達との触れあい第2弾を8月22日(土)に「ならやまベースキャンプ」で開催します。子供達から元気を大いに貰いましょう。

午前中は7月に実施した夏休みイベント第1弾と同じように、子供達にカレーライスをつくって貰います。カマド作りから、飯盒による飯炊き、カレーの食材調理などを子供達に体験して貰います。美味しいカレーが仕上がるよう皆さん方のご協力をお願いします。

午後は前年度の春に実施し、好評を得ました「ならやま自然林をめぐる冒険ハイキング」をします。コース上に設定されたポイントで、子供達との対話を通じて、自然の不思議や面白さを体験して貰います。

申し込み開始は7月25日(土)からですので、例年申し込みが殺到しこの会報がお手元に届く頃には、既に締め切りとなっていることと思います。

最近の子供達はゲーム機による室内での一人遊びが増え、保護者も野外での活動には腰がひけ、子供達自身が知恵を出し、体力を使う機会が少なくなっています。今回の催しでは私たちは裏方に回って安全面に配慮しながら、子供達に暑さをはね除けて、野外活動の面白さを味わって貰うように仕向けたいと思います。





行事案内 part 2

9月 月例研修会予告 高野山町石道 (ちょういしみち) パート 2

今回は、昨年9月の月例研修会「高野山町石道」コース(慈尊院〈和歌山県伊都郡九度山町〉～二つ鳥居)の後半を歩くこととなります。南海上古沢駅から町石道を高野山壇上伽藍・根本大塔までを上ると少しきついので、逆に高野山から下るように設定しました。従って今回は根本大塔から1町目の町石道からスタートすることとなります。高野山開創1200年記念大法会も終わり少しは静かになった初秋の町石道を歩きませんか。

1. 日時：9月25日(金)
 2. 集合：8時0分 (8時19分発乗車)南海電車なんば駅3F北改札口特急券売場前
- ※一応少雨決行の予定です。
 ※詳細は9月号でご案内します。
 ※担当：境 寛、寺田 孝



9月歴史文化クラブ予告

歴史とロマンの二上山と4～5世紀の有名な古墳を巡り、歴史の渚で文化と教養の研鑽に励みます。二上山博物館では火山に由来する3つの石(サヌカイト、凝灰岩、金剛砂)を学びます。

(マイクロバス定員27名で、申込締切です)

- 日時 9月15日(火)
 集合 8時30分 近鉄西大寺駅南口
 会費 3,000円
 申込先：歴文事務局・古川祐司
 電話：0742-44-8621

E-mail rekibun@naranature.com

予定のコース

武烈天皇陵、志都美神社(社叢は県・天然記念物)、二上山博物館(学芸員の解説)、牧野古墳(石室見学)、馬見丘陵公園(ナガレ山古墳、巢山古墳やかぐや姫伝説)、島の山古墳、廣瀬神社

(担当：森英雄、岩本次郎、坂東久平)

平成27年度奈良県景観サポーター講習



ならやま研修

今年度も奈良県の地域景観づくりの推進役を目指す「奈良県景観サポーター」が募集されました。

この景観サポーターになる皆さんの基礎講習の一環として、今年もならやまフィールドが景観づくり活動体験の場として指定されました。

日時：9月17日(木) 9～15時の予定

雨天の場合10月1日(木)に順延

参加者：受講者+県の関係者の方約20名

内容：①オリエンテーション他

②里山保全活動体験(伐採・処理)

③当会会員との意見交換会

④ならやまの自然景観観察等々

この制度は4年目で、これまでに66名の方が県に登録され、各地で活躍されています。

私達も昼食時からの意見交換の場で、景観サポーターを目指す方々との懇親を図りましょう。

県の担当：景観・自然環境課 景観保全審査係

(事務局：辻本信一)

奈良学クイズ

【問】3人の人達は、いずれも奈良に深い関わりがあります。お名前を漢字でお答えください。



【締切】8月3日

【応募方法】メール

【景品】旬菜 etc

【7月号答え】

- ①西岡常一、②橋本凝胤、③今井凌雪

平成27年・7月度幹事会報告

- ◆日 時：平成27年7月7日(火) 17:00～19:45
- ◆場 所：奈良市中部公民館
- ◆案 件：

I 会長挨拶

・7月は3件のイベント予定。ご協力願います。

II 報告事項

- ① 会員動向：150名(1名退会、2名入会：1名増)
- ② 月例研修会、イベント等の活動報告：
 - ・6/4 田植え、6/25 春の感謝祭、自然教室校庭観察会(6/3 帯解小学校、6/6 育英小学校、6/24 佐保台小学校)何れも多数の参加者を得て盛況との報告があった。(会報記事ご参照下さい。)
 - ③今年度の顧問・幹事役割分担、ならやま委員会・サポート体制新メンバー、防犯推進員新設確認。

III 検討事項

- ①ならやま活動予定：
 - ・里山 G:エリア境界の杭打ち、ロープ張り他実施。
 - ・エコファーム G:水田除草来年度は早期に実施。
 - ・景観 G:7/30 第5地区・佐保自然の森、ひまわり伐採と鋤き込み、GGプロジェクトに向け池周り草刈り実施。
 - ・7月よりサマータイム実施：9時～13時 朝礼9時・終礼13時、但し8時よりの活動も可。
- ②林野庁交付金事業：5/26 交付金採択通知着。
- ③7/25 GG プロジェクト参加予定者数(子供55名、保護者29名、スタッフ53名)計137名5班編成で実施予定。
- ④新春講演会について
 - ・従来通り会員向けとし原則一般公開せず。
 - ・講師(第1、第2)候補決定。
- ⑤ネイチャーなら8月号の内容説明があった。
- ⑥当会発足15周年・ならやま発足10周年の記念行事企画・推進に当たり委員会設置を検討。

IV 確認事項

- ①イベント予定：7/15 ジョイントコンサート、7/20「山もり・てんこ森」、7/21 月例研修会他。
 - ②7～9月スケジュール日程を確認した。
 - ③8/4 8月度幹事会、中部公民館にて開催予定
- 以上

◇ 申し合わせ ◇

- ※ ならやまでのプロジェクト活動やイベントは、前日午後7時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の降水確率が午前60%以上の場合は、中止になります。
- ※ 通常活動日【木曜日】が、雨天等により中止になった場合、翌日【金曜日】を臨時活動日とします。



◆ 最近よく原点回帰と云う言葉を耳にする。

戦後70年節目の年に、色々な意味で過去を振り返り、方針を見直す事が必要になっている。

歴史は過去の反省材料であり、見る角度により評価は異なるが未来を創る発想の卵でもある。

来年、わが会も発足15年を迎える。忍辱山の国有林から今の県有林に移り、再来年には、ここならやまのベースキャンプで10年目になる。

会員数も150名を数えるまでになり、活動の中味も大きく変化した。組織のあり方も含め、今一度発足時の原点を見つめる必要はないのか。

(創刊号から：抜粋)『会員各位とのコミュニケーションを図り、歴史・文化の切口を含め、野外活動、座学等において研鑽を重ね、「楽しく、和やかに」をモットーに実のある企画を実践してまいります。』 (行々子)

会報誌【ネイチャーなら】・第163号

発行：奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲

<http://www.naranature.com>



編集チーム代表：坂東久平